

国際障害者年記念福祉大会

提言「ろうあ者として」三ヶ田典明さん

もちろん、ろうあ者は一人ではなにも出来ないと言っているではありません。一人でも立派にやっています。しかし、まわりが健聴者ばかりの中でろうあ者は、常に神経を張りつめていなければなりません。誰かが話しかけて来たらすぐ返事をする必要がある。相手の話す口もとに全神経を集中し、一発で読みとらねばならない。まわりの会話が聞こえず流れがつかめない場合は失礼のないように、聞きかえす言葉を書きかえすことも考える必要がある。精神的にゆとりがありません。そのため、ふっと気のゆるんだ時にとんでもない間違いをする事もある。相手におこられても、これは説明のしようがありません。耳の聞こえないせいにして障害にあまえていると言われたくないので頭をかいてごまかすしかない。本当に疲れます。

ろうあ者は五体満足でうるさい音が聞こえないから気楽だという見方がありますが、それは間違っています。はた目には片言でも話が通じ、冗談を言っているように見えても、その人がふっと見せる精神の孤独におどろくことがあります。『泣くがいやさに笑ってござる』ということばがありますが、まさしくその感じですよ。

皆さんは、足の不自由な人と歩いていて、自分だけささと先に行っていて足の不自由な人をおそいとなじる、その

ような事はしないはずですよ。ところがろうあ者が会話の中でとんちんかんな返事をすると、いやな顔をされます。笑われます。私はそこに矛盾を感じてなりません。

ろうあ者の障害は耳にあるのではなく、人間的な会話が出来にくいことにあるのです。健聴者のペースにまきこまれたろうあ者は、話を追うだけで精いっぱいになってしまいます。一人でも二人でも仲間がいれば、そこにろうあ者のペースが出来、健聴者のみなさんもそれに合わせやすくなります。百万言の解説よりも実際にろうあ者のグループと話してみることが、その理解の最善の方法です。ろうあ者の立場に思いやりのない、たとえその場の会話が手話で行われていても、ついて行かず孤立してしまうのです。ろうあ者が一人では集会などに参加したがいけないのは、言ってみれば自衛手段なのです。このようなさびしい自衛手段をとらなくてもいいように、ろうあ者同志の仲間づくりをすすめ、ともに活動することによって、健聴者の皆さんにも理解の輪を広げて行きたいと私は思っています。

まだまだ経験も浅く、考えの足りないところもある私ですが、以上のように述べさせていただきます。

(おわり)

フォトニュース



▲全日本選抜 J-Champ大会
長根山に建設中だったアストロチャンツェが完成し、そのしゅろ工記念全日本選抜J-Champ大会が今月一日約千人のスキーファンを集めて開催されました。雪なしのJ-Champ大会を見るのは初めてという人もあり、ジャンプの妙技はもとより、滑走面のしくみなどにも熱心な目が注がれていました。



▲よりいっしょ、世界の友たち
東京にある在日フランス小学校「リセ・フランコ・ジャポネ」の児童ら一行三十五人が、先月二十二日から八日間、峠の家を中心に林間学校を開校しました。期間中、施設見学や市内の小学生との宿泊交流などがあり、子ども同士、言葉の壁を越え、すくなく仲良くなる光景も見られました。



▲雪沢分館が完成しました
長木公民館雪沢分館が完成、今月五日、しゅろ工式が行われました。同館は昭和三十三年に建設されましたが、老朽化がはなはだしいことから新築の運びとなったのです。完成により、地域住民の生涯教育の推進や、親睦交流に大いに活用されるものと期待されています。

市民読書感想文 入賞者決まる

第十二回市民読書感想文には今年も多くの方々から応募がありました。審査の結果、入賞は次の方々に決まりました。なお一席には、一般、学生の部、ともに該当作品はありませんでした。

- ▲一般の部
第二席
単行者となる勇氣
伊藤豊子さん(釈迦内)
やさしさ
岩沢衣都子さん(三の丸)
佳作
田村久美子さん(東台)
山本涼子さん(東台)
工藤恵子さん(釈迦内)
伊藤エリ子さん(小館町)
武田ツリ子さん(中道)
原 奈穂江さん(白沢)
川島美栄子さん(赤館)

- ▲学生の部
第二席
「太陽の子」を読んで
切野富子さん(片山)
「撫子」を読んで
佐藤真貴子さん(長木川南)
「老人と海」を読んで
武石久美子さん(桜町南)
佳作
成田 明さん(池内)
新沢由美子さん(白沢)
庄司輝美さん(片山)
新川道子さん(釈迦内)
明石真理子さん(大町)

- 〈国税相談日〉
11月25日、12月25日
〈交通事故相談日〉
11月24、12月8、15、22日
〈社会保険相談日〉
11月20日、12月21日
〈法律相談日〉
11月18日、12月18日

保健衛生功労者

▲川連ミサ氏(88) 御成二丁目
次の方氏は、学校医として多年にわたり、児童の検診、疾病予防に尽力し、学校保健の向上指導に寄与されました。

▲高橋ミネ氏(79) 一心院南
同氏は社会福祉協議会理事として多年にわたり、青少年や母子問題に情熱を傾注し、福祉の増進に寄与されました。

▲秋田県環境衛生同業組合 三ツ倉広蔵氏(61)
次の方氏は、大館支部長として組織の育成強化に尽力し、多年にわたり老人ホーム入居者の理容及び美容奉仕に努められ、老人福祉に寄与されました。

統計功労者

▲菅原忠雄氏(61) 東台二丁目
同氏は統計調査員協議会を結成して以来、会長として多年にわたり統計思想の普及と市の統計業務の推進に尽力されました。

▲佐藤孝一氏(76) 赤館町
同氏は市身体障害者協会会長として多年にわたり、会の育成と身障者の更生援護に献身的に尽くされました。

▲秋田県環境衛生同業組合 佐藤啓作氏(53)
同氏は、老人福祉の向上に多大な情熱を傾け、多年にわたり老人ホーム入居者に物心両面にわたるご支援により生がいと楽しみを与えてくれました。

一般功労者

▲伊藤勇男氏(64) 中城
同氏は多年にわたり消防活動に精励し、団長として団員を指導するに精励し、消防の近代化を推進し、市民の安全に寄与されました。

▲伊藤利一氏(66) 怪井沢
同氏は、老人福祉の向上に多大な情熱を傾け、多年にわたり老人ホーム入居者に物心両面にわたるご支援により生がいと楽しみを与えてくれました。

▲竹村フキ氏(73) 新町
同氏は、消防団員拜命以来、地域住民の財産・生命を守るべく常に陣頭に立ち挺身され、民生保全に寄与されました。

善行功労者

▲谷田部 進氏(72) 十二所
同氏は、大館支部長として組織の育成強化に尽力し、多年にわたり老人ホーム入居者の理容及び美容奉仕に努められ、老人福祉に寄与されました。

▲阿部忠一郎氏(71) 馬喰町
同氏は、大館支部長として組織の育成強化に尽力し、多年にわたり老人ホーム入居者の理容及び美容奉仕に努められ、老人福祉に寄与されました。

▲木村昇平氏(72) 部垂町
同氏は、大館支部長として組織の育成強化に尽力し、多年にわたり老人ホーム入居者の理容及び美容奉仕に努められ、老人福祉に寄与されました。